資料６

令和8年8月20日
第5回いわき市水道事業経営審議会資料

いわき市水道事業　事業評価

（令和7年度）

いわき市水道局

本日の内容

Ⅰ　事業評価とは …… 3

Ⅱ　実施事業評価 …… 9

Ⅲ　業務指標評価 …… 33

Ⅳ　まとめ …… 42

Ⅰ　事業評価とは

1　水みらいビジョンと事業評価の関係 …… 4

2　事業評価の概要 …… 5

3　事業評価の目的 …… 6

4　事業評価の観点 …… 7

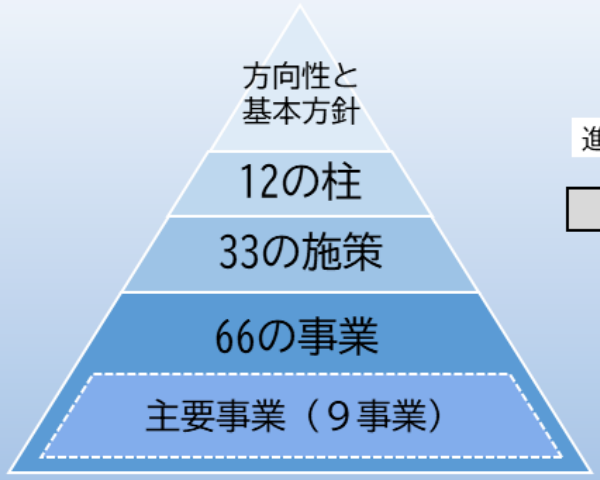
5　事業評価の体制 …… 8

Ⅰ 水みらいビジョンと事業評価の関係

水みらいビジョン

目指すべき将来像「安全を確保し、おいしい水道水を供給できる水道」、「災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道」、「供給体制の持続性を確保し、安定的な経営基盤を確立できる水道」の実現に向けた歩みを着実に進めるため、方向性と基本方針の下、施策や事業を展開

目指すべき将来像



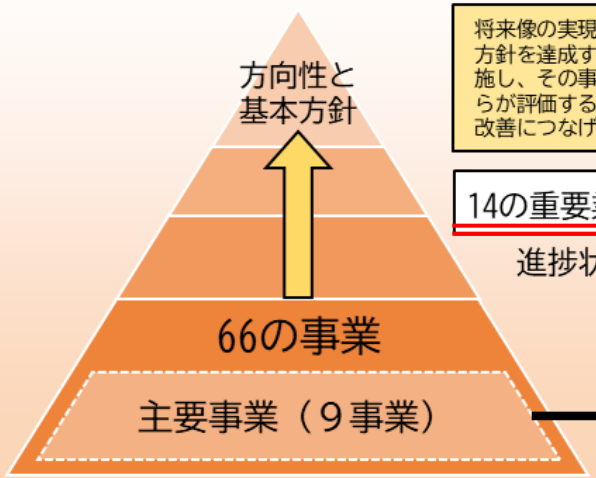
進捗状況を評価

事業の効果を分析

事　業　評　価

① 実施事業評価

事業の結果・成果を達成目標の進捗状況により５段階で評価
重要業務指標(KPI)の進捗状況を確認



将来像の実現に向けて定めた基本方針を達成するために、事業を実施し、その事業について水道局自らが評価することにより、計画の改善につなげる。

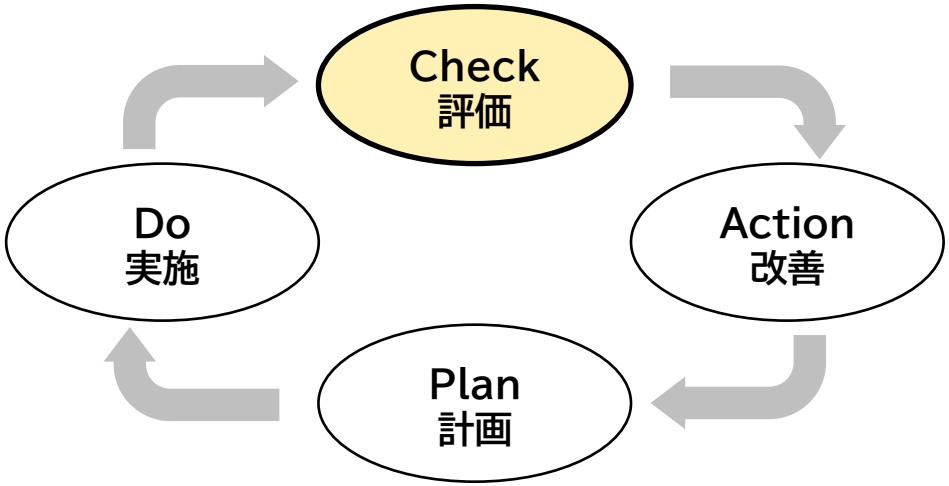
14の重要業務指標(KPI)
進捗状況を確認

② 業務指標評価

事業活動の効果をＰＩにより評価・分析

2　事業評価の概要

「水みらいビジョン」では、事業をより効果的かつ効率的に実施し、将来像の実現を推進するために、PDCAサイクル（「計画（Plan）－　実施（Do）－　評価（Check）－改善（Action）」のマネジメントサイクル）により、事業の進捗管理と事業効果の点検評価を行い、改善策等を翌年度以降の計画や予算に反映させることで、継続的な改善・見直しを図ることとしています。



マネジメントサイクル
（PDCAサイクル）

3 事業評価の目的

事業評価は、PDCAサイクルのC（Check）に位置付けられるものであり、水道局が行ったさまざまな事業について、その進捗状況や事業効果を水道局自らが評価・分析することにより、計画の改善につなげるものです。

次の3つの項目を目的として実施しています。

① 効率的な事業経営

事業の進捗状況と事業効果の評価を行い、改善策を翌年度以降の計画や予算に反映させることにより、**限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を有効に活用**します。

② 結果・成果重視の実現

目標を設定して事業を遂行し、事業の進捗状況を水道局自らが評価することで、**結果・成果を追及する意識が生まれ、それらを重視した事業運営を実現**します。

また、これにより事業を効率的かつ効果的に実施していく方策を考えることが可能となり、**事業の質の向上**につながります。

③ アカウンタビリティ（説明責任）の向上

事業の進捗状況や事業効果の評価を公表することにより、**経営の透明性を高めます**。

4 事業評価の観点

単年度の事業評価では、目指すべき将来像「安全を確保し、おいしい水道水を供給できる水道」、「災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道」、「供給体制の持続性を確保し、安定的な経営基盤を確立できる水道」の実現に向けた歩みを着実に進めるため、事業の進捗状況や事業活動の効果の評価を2つの観点で行います。

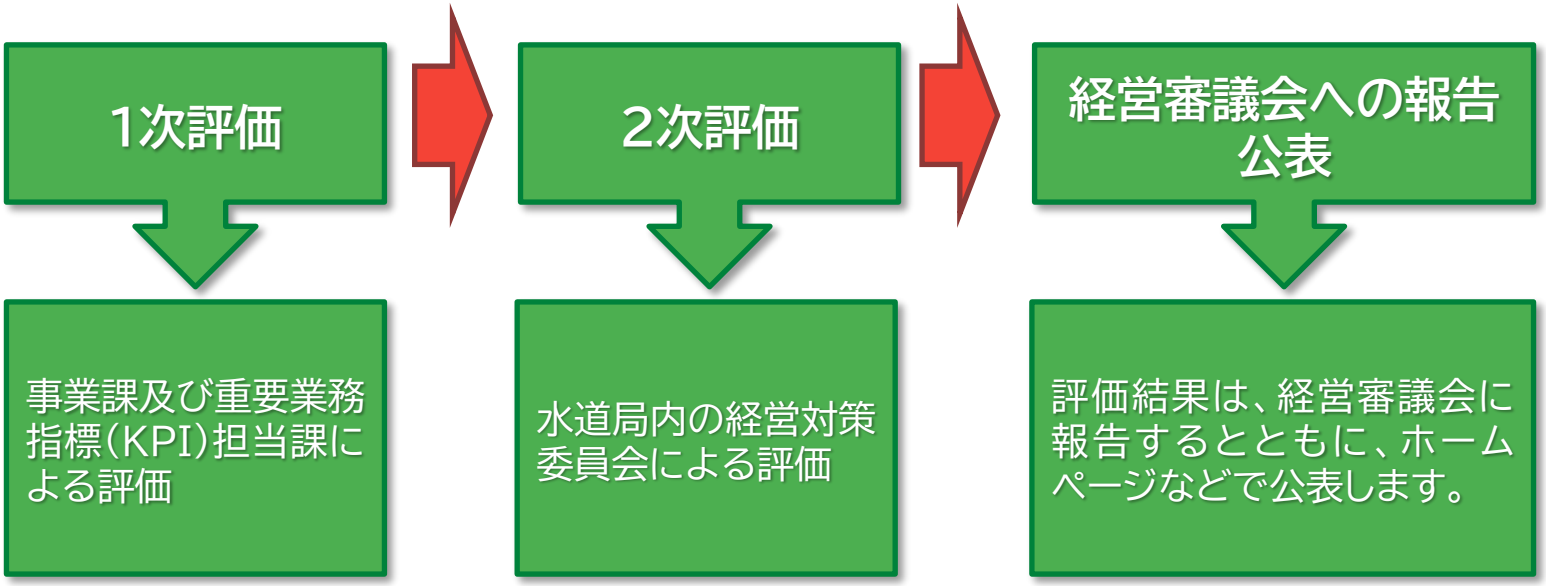
評価の観点	主 な 特 徴
① 実施事業評価	● 事業の進捗状況を、5段階で評価します。 ● 重要業務指標(KPI) [1]の進捗状況を確認します。
② 業務指標評価	● 事業活動の効果について、PI(業務指標) [2]を活用し評価を行います。 ● PIを水みらいビジョンに掲げた3つの観点(「安全」、「強靭」、「持続」)に区分し、体系的な視点から評価を行います。 ● 経年比較により「改善度」を確認します。 ● 類似団体[3]との比較により、「乖離値」を確認します。 ● 改善度と乖離値の評価結果をもとに分析を行います。

1 KPIとは、Key Performance Indicatorsの略で、水みらいビジョンにおいて、９つ主要事業の実行性を確保するとともに、その達成状況をお客さまにわかりやすくお知らせするために設定された指標。
2 PIとは、Performance Indicatorsの略で、水道業務の効率を図るために活用できる規格の一種で、水道事業体が行っている多方面にわたる業務を定量化し、厳密に定義された算定式により評価するもの。
3 類似団体とは、総務省公表の現在給水人口が30万人以上の末端給水事業（政令指定都市を除く。）の49事業体（いわき市を含む）であり、そのうちPI算出・公表している39事業体と比較しています。

5　事業評価の体制

事業評価は、事業課などによる1次評価と、水道局内の経営対策委員会による2次評価の2段階体制で評価を行っています。

評価結果は**経営審議会に報告**するとともに、水道局ホームページなどでお客様に**公表**します。



Ⅱ　実施事業評価

1　実施事業評価の概要 …… 10

2　水みらいビジョンの施策体系表 …… 11

3　実施事業評価（主要事業） …… 15

4　重要業務指標（KPI)の進捗状況 …… 24

【参考1】【参考2】

Ⅰ 実施事業評価の概要

実施事業評価は、水みらいビジョンで展開する①66の事業の進捗状況を評価するものです。特に、水みらいビジョンの中心となる②9つの主要事業については、達成状況についてもお知らせします。また、主要事業に設定された③ 14の重要業務指標（KPI）の進捗状況を確認します。

実施事業評価の評価基準

実施事業評価は、事業ごとに設定した達成目標を踏まえ、A～Eの５段階で評価します。

○数値目標がないもの	○数値目標があるもの	○達成目標が複数あるもしくは複数課にまたがる場合の集約		
順調に進捗している	目標値の100%以上	各評価の平均値	4.5以上	⇒ A評価
おおむね順調に進捗している	目標値の80%以上100%未満		3.5以上4.5未満	⇒ B評価
やや遅れている	目標値の50%以上 80%未満		2.5以上3.5未満	⇒ C評価
遅れている	目標値の30%以上 50%未満		1.5以上2.5未満	⇒ D評価
ほとんど進捗していない	目標値の30%未満		1.5未満	⇒ E評価

① 実施事業評価（66事業）一覧表

施策と事業	計画/実績/評価	いわき水みらいビジョン2031 R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
柱2.1 水需要を踏まえた施設再編による水道システムの最適化、安定化											
施策9 水道施設再構築構想の推進											
No.13 水道施設再構築構想の推進	計画	実施									
	実績	実施	実施	実施	-						
	評価	A	A	A	-						
No.14 浄水場再整備事業	計画	発注方式の検討			基本計画		基本設計		官民連携導入可能性調査	事業者選定 ～R14	
	実績	検討	検討	検討	実施						
	評価	A	A	A	A						

② 9つの主要事業

2.3 実施事業評価（主要事業）

No.14 浄水場再整備事業	評価	
	評価数値 5.0	A

○評価数値基準

A	5.0	順調に進捗している
B	4.0	おおむね順調に進捗している
C	3.0	やや遅れている
D	2.0	遅れている
E	1.0	ほとんど進捗していない

【事業概要】
この事業は、長期的な水需要の見通しや配水運用を踏まえ、浄水場の再整備をはじめとした水道施設の再編により、水道システム全体の最適化、安定化を目指すものです。

【実施・評価内容】
令和7年度は、泉浄水場の設計諸元などの基本計画を策定するため、「基本計画策定支援業務委託」において「浄水処理方式」、「施設規模及び運用方式」などの検討を行ったことから、「A」評価としました。

泉浄水場の再整備スケジュール

項 目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
浄水場再整備の実施				基本計画策定		基本設計、官民連携導入可能性調査			業者選定	
発注方式の検討	検討								決定	

③ 14の重要業務指標（KPI）の進捗状況

指標No.	業務指標名 算出方法	R2（ビジョン策定時）	R7（実績値）	R7（目標値）	R13（目標値）	指標の解説	対応する事業	指標特性/改善方向
1	【局指標】 バックアップ率(%) （各浄水場停止時のバックアップ可能水量合計／1日平均配水量）×100 ※上水道のみの数値	62.7%	70.9%	69.1%	76.3%	1日平均配水量に対するバックアップ可能水量の割合を示すもので、各浄水場の機能が停止した場合の給水の安定性を表すものであり、水道施設再構築構想において目標として設定したもの。	浄水場再整備事業 基幹浄水場連絡管整備事業	累積 ＋

主要事業の達成状況を見える化（数値化）し、わかりやすくお知らせ

2 水みらいビジョンの施策体系表

基本理念	新水道ビジョンの観点	3つの将来像	3つの方向性と基本方針	施策の柱	施策		事業	
「未来に引き継ぐいわきの水道」～安全でおいしい水を必要なだけ～	安全	<将来像1> 安全を確保し、おいしい水道水を供給できる水道	<安全の方向性> 安全でおいしい水道水の供給	柱1.1 水安全対策の着実な実施による良好な水質の保持	1	水安全計画の推進	1	水安全計画の推進
					2	水道水源の保全と監視	2	水道水源の保全と監視強化
							3	水道水源水質保全促進事業補助金の交付
					3	良質な水道水の維持・向上	4	安全でおいしい水道水の調査研究
			<基本方針> 水源から蛇口までの統合的な安全対策の推進により、安心して飲める水道を目指す	柱1.2 水質検査の充実による適正な水質管理の維持	4	水質検査計画の推進	5	水質検査計画の策定と推進
					5	水質管理体制の強化と設備の充実	6	水質検査機器の計画的整備・更新
							7	水道GLP認定に準じた検査体制の整備
					6	放射性物質のモニタリング	8	放射性物質モニタリングの継続
				柱1.3 安心して飲める水道の普及促進	7	給水装置等の適正管理の促進	9	貯水槽水道の適正管理の推進
							10	直結式給水の推進
							11	鉛製給水管の布設替の推進
					8	多様な手法による水供給の研究	12	多様な手法による水供給の研究

2 水みらいビジョンの施策体系表

基本理念	新水道ビジョンの観点	3つの将来像	3つの方向性と基本方針	施策の柱	施策		事業		
「未来に引き継ぐいわきの水道」 ～安全でおいしい水を必要なだけ～	強靭	<将来像2> 災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道	<強靭の方向性> 最適で災害に強い水道システムの構築	柱2.1 水需要を踏まえた施設再編による水道システムの最適化、安定化	9	水道施設再構築構想の推進	13	水道施設再構築構想の推進	
							14	浄水場再整備事業	主要事業
					10	水道施設の効率運用の検討と管理	15	水道施設のダウンサイジングの検討	
							16	水道施設の効率的な運用	
							17	水道施設撤去事業	
					11	水道施設の新設・更新	18	水道施設整備計画の推進	
							19	水道施設新設事業	
							20	水道施設更新事業	主要事業
			<基本方針> 災害経験や将来の水需要を踏まえた、効率的で災害に強い水道システムを目指す	柱2.2 個別対策と相互融通体制の構築による水道システムの強靭化	12	水道施設耐震化計画の推進	21	水道施設耐震化計画の推進	
							22	水道施設耐震化事業	主要事業
					13	水道施設津波・浸水対策計画の推進	23	水道施設津波・浸水対策計画の推進	
							24	水道施設津波・浸水対策事業	主要事業
					14	水道施設土砂災害対策計画の推進	25	水道施設土砂災害対策計画の推進	
							26	水道施設土砂災害対策事業	主要事業
					15	水道施設停電対策計画の推進	27	水道施設停電対策計画の推進	
							28	水道施設停電対策事業	主要事業
					16	管路の新設・更新等による相互融通体制の構築と管路の強靭化	29	管路整備計画の推進	
							30	基幹浄水場連絡管整備事業	主要事業
							31	重要給水施設配水管整備事業	主要事業
							32	老朽管更新事業	主要事業
							33	管路新設事業	

2 水みらいビジョンの施策体系表

基本理念	新水道ビジョンの観点	3つの将来像	3つの方向性と基本方針	施策の柱	施策	事業
「未来に引き継ぐいわきの水道」～安全でおいしい水を必要なだけ～	強靭	<将来像2>災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道	<強靭の方向性>最適で災害に強い水道システムの構築	柱2.3 適正な維持・修繕による水道施設の長寿命化	17 水道施設状況の適正把握	34 水道施設台帳の整備・更新
						35 水道施設情報管理のシステム化の検討
					18 適正な維持・修繕の推進	36 水道施設長寿命化計画の推進
						37 計画的な維持修繕の実施(計画修繕)
						38 漏水防止対策事業
				柱2.4 危機管理体制の強化による防災力の向上	19 水道事業継続計画の推進	39 水道事業継続計画(BCP)の推進
					20 危機管理対策マニュアルの充実	40 危機管理対策マニュアルの充実と教育・訓練の実施
					21 応急資器材・体制等の整備	41 災害時通信手段の確保
						42 応急資器材の備蓄と適正管理
			<基本方針>災害経験や将来の水需要を踏まえた、効率的で災害に強い水道システムを目指す			

2 水みらいビジョンの施策体系表

基本理念	新水道ビジョンの観点	3つの将来像	3つの方向性と基本方針	施策の柱	施策	事業
「未来に引き継ぐいわきの水道」 ～安全でおいしい水を必要なだけ～	持続	＜将来像3＞ 供給体制の持続性を確保し、安定的な経営基盤を確立できる水道	＜持続の方向性＞ 持続可能な経営基盤の確立	柱3.1 効率的な組織体制の構築と人材育成の充実による組織力の強化	22 効率的な組織体制の構築と適正な定員管理	43 効率的な組織機構の検討と適切な人員管理
					23 専門性に富む人材の育成	44 職員教育の充実と求められる技術力の確保
				柱3.2 効率的で効果的な運営による経営基盤の強化	24 適正な水道料金制度の維持・検証	45 将来の事業環境を見据えた水道料金制度の検討
					25 財務体質の強化	46 財政収支計画の推進
						47 企業債管理の適正化
						48 アセットマネジメントの活用推進
						49 財政支援等の要望と新たな財源確保の推進
					26 業務の改善・改革	50 新たな官民連携による業務改善の検討
						51 業務改善の推進
					27 水道電算処理システムの改善とICT活用の推進	52 水道電算処理システムの改善
						53 ICT活用による業務の効率化の検討
					28 水みらいビジョンの進行管理と評価	54 水みらいビジョンの進行管理と評価
			＜基本方針＞ 本格的な人口減少社会にあっても、健全で安定的な事業運営を目指す	柱3.3 環境対策の推進による環境負荷の低減	29 環境対策の推進	55 市循環型オフィスづくり行動計画の推進
						56 再生可能エネルギー利用と省エネルギー対策の推進
						57 発生抑制を主眼とした3Rの推進と適正処理
				柱3.4 効果的な広報広聴活動によるお客さまとのコミュニケーションの推進	30 求められる情報の積極的な提供とお客さま意見の把握	58 戦略的でわかりやすい広報の推進
						59 電子媒体を活用した情報提供の推進
						60 お客さま意識調査等の実施
					31 水が潤うまちづくりの推進	61 水に親しむまちづくりの推進
				柱3.5 関係者等との連携・協働による水道サービスの向上と水道基盤の強化	32 水道サービスの充実	62 修繕体制の充実
						63 指定給水装置工事事業者等との連携
						64 お客さま手続サービスの利便性向上
					33 広域連携・官民連携による水道基盤の強化	65 他水道事業者からの水質検査受託の継続
						66 関係者等との連携による水道基盤の強化

○評価数値基準

A	5.0	順調に進捗している
B	4.0	おおむね順調に進捗している
C	3.0	やや遅れている
D	2.0	遅れている
E	1.0	ほとんど進捗していない

No.14　浄水場再整備事業

評　価

評価数値 5.0　　A

【事業概要】

この事業は、長期的な水需要の見通しや配水運用を踏まえ、浄水場の再整備をはじめとした水道施設の再編により、水道システム全体の最適化、安定化を目指すものです。

【実施・評価内容】

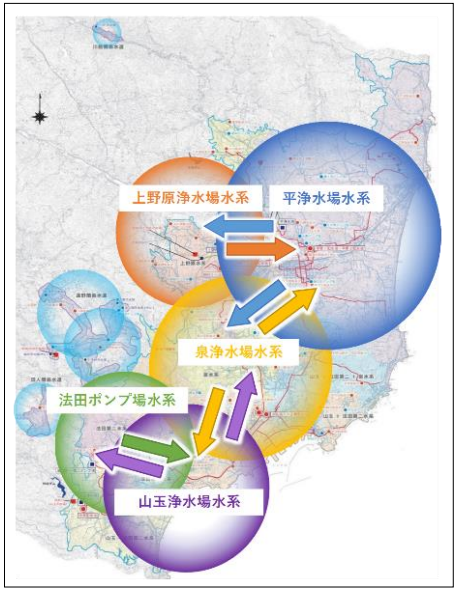
令和7年度は、泉浄水場再整備の設計に必要な条件や仕様などの基本計画を策定するため、「基本計画策定支援業務委託」において「浄水処理方式」、「施設規模及び運用方式」などの検討を行いました。

・泉浄水場再整備事業基本計画策定支援業務委託（R7～R8継続事業）

浄水場の再整備スケジュール

項　目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
浄水場再整備の実施				基本計画策定		基本設計、官民連携導入可能性調査				業者選定
発注方式の検討	検討								決定	

発注方式によっては浄水場再整備スケジュールは変更となる可能性があります。



【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
1	【局指標】 バックアップ率（%）
4	【PI:B602】 浄水施設の耐震化率（%）
13	【局指標】 施設の更新率（%）



泉浄水場（昭和39年建設）

No.20 水道施設更新事業

評 価	
評価平均値 5.0※	A

※事業が複数課にまたがるため、その評価結果を数値化し、平均で算出

○評価の集約基準

A	4.5以上	
	4.5	
B	3.5以上	4.5未満
	3.5	
C	2.5以上	3.5未満
	2.5	
D	1.5以上	2.5未満
	1.5	
E	1.5未満	

【事業概要】

この事業は、水道施設整備計画において本市の更新基準として設定した「標準使用年数」や、施設の重要度に応じて設定した「延長使用年数」に基づき、浄水施設や配水施設などを計画的に更新するものです。



堤ノ上調整池更新工事 SUS調整池

【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
5	【PI:B603】 ポンプ所の耐震化率（%）
6	【PI:B604】 配水池の耐震化率（%）
13	【局指標】 施設の更新率（%）

【実施・評価内容】

令和7年度計画 10件（下線部） ⇒ 完了 19件

○完了：19件

〈令和6年度から令和7年度への繰越分：7件〉

・堤ノ上調整池更新工事 など

〈令和7年度計画分：8件〉

・山玉浄水場No.1送水ポンプ電動弁更新工事 など

〈令和7年度計画外：4件〉

・中部工業団地配水池流入弁改良工事 など

○未完了：2件

〈令和7年度から令和8年度への繰越分：2件〉

・空山減圧弁外1箇所減圧弁設備更新工事（口径等の再検討） など

① 施設単位の更新

【建築構造物】
・鉄筋コンクリート
・コンクリートブロック
など

【土木構造物】
・鉄筋コンクリート造（PC・RC）
・ステンレス造
・合成樹脂造（FRP）
など

② 設備単位の更新

【電気】
・受変電盤
・配電盤
・発電機
・照明器具
など

【機械】
・ポンプ
・注入設備
・電動弁
・減圧弁
など

【計装】
・流量計
・水位計
・計装盤
・自動通報装置
など

【その他】
・ろ過材
・場内整備
・場内配管
など

No.22 水道施設耐震化事業

評 価

評価平均値 4.0※ **B**

※事業が複数課にまたがるため、その評価結果を数値化し、平均で算出

○評価の集約基準

A	4.5以上	
B	4.5	3.5以上 4.5未満
C	3.5	2.5以上 3.5未満
D	2.5	1.5以上 2.5未満
E	1.5	1.5未満

【事業概要】

この事業は、重要度の高い施設について、耐震性能を確認するため耐震診断を実施し、耐震性が低いと判定された施設について、耐震補強や施設の更新による耐震化を進めるものです。

【実施・評価内容】

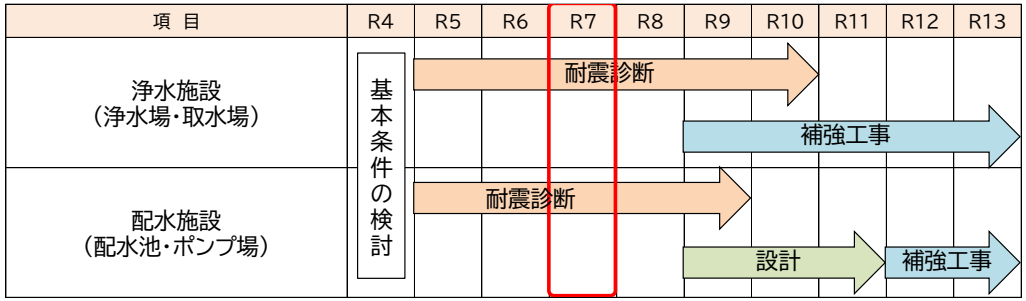
令和7年度計画 7施設（下線部） ⇒ 完了 2施設

○完了：2施設
- ・平浄水場（1系）耐震診断委託 ⇒耐震性あり
- ・入遠野浄水場耐震診断委託 ⇒耐震性あり

○未完了：5施設
- ・中央台ポンプ場外4箇所耐震診断委託（入札不調）
  - 中央台ポンプ場
  - 中央台高区配水池
  - 草木台配水池
  - 浅貝配水池
  - 旅人2号配水池

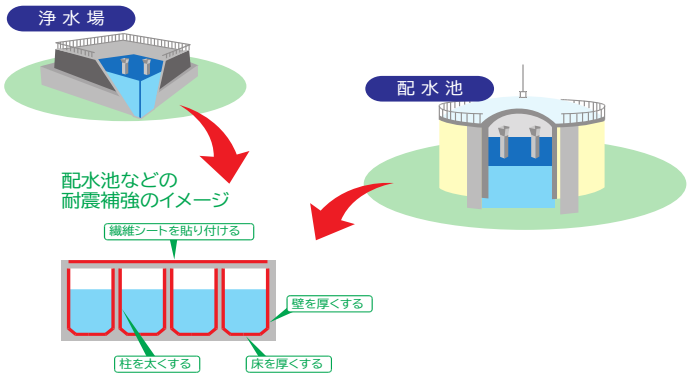
※R9年度に実施する予定

水道施設耐震化事業スケジュール



【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
3	【局指標】耐震診断実施率（%）
4	【PI:B602】浄水施設の耐震化率（%）
5	【PI:B603】ポンプ所の耐震化率（%）
6	【PI:B604】配水池の耐震化率（%）



水道施設の耐震化イメージ

No.24 水道施設津波・浸水対策事業

評 価

評価数値 5.0　A

令和7年度事業完了

○評価数値基準

A	5.0	順調に進捗している
B	4.0	おおむね順調に進捗している
C	3.0	やや遅れている
D	2.0	遅れている
E	1.0	ほとんど進捗していない

【事業概要】

この事業は、津波や大雨による浸水被害が発生した場合においても、水道施設の機能を維持し安定した給水を確保するため「水道施設津波・浸水対策計画」に基づき、防護壁の設置、開口部の防水化、止水板の設置等の津波・浸水対策を進めるものです。



津波・浸水対策対象総数　9施設

○浄水施設
- 平浄水場（R7対策完了）
- 法田ポンプ場（R5対策済）
- 下平窪取水場（R4対策済）

○配水施設
- 平窪第2ポンプ場（R5対策済）
- 薬王寺ポンプ場（R5対策済）
- 好間ポンプ場（R6対策済）
- 独古内ポンプ場（R6対策済）
- 釜戸第1ポンプ場（R6対策済）

○庁舎
- 水道局本庁舎（R4対策済）

【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
10	【局指標】 津波・浸水対策実施率（%）

【実施・評価内容】

令和7年度計画　1施設　⇒　完了　1施設

○完了：1施設

〈令和7年度計画分：1施設〉

・平浄水場浸水対策工事（R5～R7年度継続事業）





No.26 水道施設土砂災害対策事業

評 価

令和6年度事業完了

○評価数値基準

A	5.0	順調に進捗している
B	4.0	おおむね順調に進捗している
C	3.0	やや遅れている
D	2.0	遅れている
E	1.0	ほとんど進捗していない

【事業概要】

この事業は、水道施設において土砂災害が発生した場合においても、浄水処理や送・配水機能への被害を抑制し確実な給水を維持するため、「水道施設土砂災害対策計画」に基づき、計画的な土砂災害対策を進めるものです。

令和6年度に事業は完了していますが、今後も土砂災害警戒区域の見直しなどにより、対策が必要となった場合には、適正な対策を実施してまいります。

土砂災害対策対象施設　3施設

【恒久対策】 取水口　1施設
・大滝江筋取水口斜面落石対策工事（R6対策済）
【予防対策】 配水施設　2施設
・下ケ屋敷調整池土砂災害対策工事　（R4対策済）
・頭巾平ポンプ場土砂災害対策工事　（R4対策済）

【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
11	【局指標】 土砂災害対策実施率（%）

【実施・評価内容】

令和6年度事業完了

○ 取水口

恒久対策として、取水口が閉塞しないよう、斜面の落石防護網を設置する工事を実施しました。

○ 配水施設

予防対策として、被災時においても給水を可能にする仮設給水タンクや給水ポンプ接続用配管の設置工事を実施しました。





大滝江筋取水口落石防護網設置完了（R6対策済）

No.28 水道施設停電対策事業

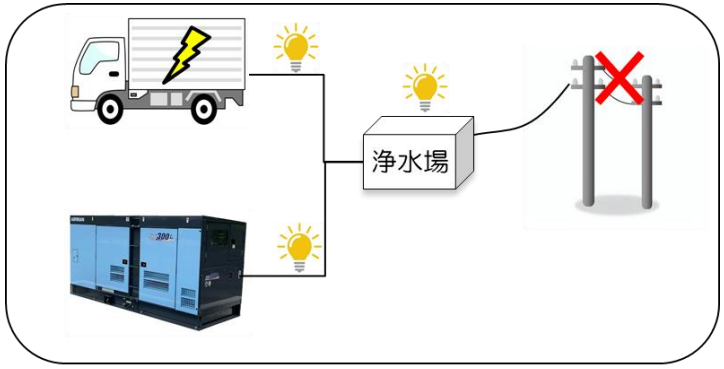
評価	
評価数値 5.0	A

○評価数値基準

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

【事業概要】

この事業は、停電の発生リスクの高まりを踏まえ、停電が発生した場合においても、浄水処理や送・配水機能への被害を抑制し確実な給水を維持するため、「水道施設停電対策計画」に基づき、自家発電設備の整備など施設の重要度に応じた計画的な停電対策を進めるものです。



水道施設の停電対策イメージ

【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
12	【局指標】 停電対策実施率（%）

【実施・評価内容】

令和7年度計画　1施設　⇒　実施　1施設

○実施：1施設
〈令和7年度計画分：1施設〉
・山玉浄水場非常用自家発電設備整備工事（R6～R8年度継続事業）
・山玉浄水場非常用自家発電設備整備工事監理業務委託（R6～R8年度継続事業）


（自家発棟/建築工事中　令和7年12月末）



田部ポンプ場の可搬型発電機（令和4年度）



移動電源車（令和5年度）

フラ☆シティ iWAKI

○評価数値基準

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

No.30 基幹浄水場連絡管整備事業

評 価

評価数値 5.0　A

【事業概要】

この事業は、平常時の効率的な配水運用を可能にし、さらに災害発生時などの非常時にも安定した給水を確保し、災害による影響（断水）を最小化することを目的として、浄水場水系間で相互融通体制を構築する連絡管等の整備を進め、バックアップ機能の強化を図るものです。

本計画期間においては平浄水場から常磐地区や泉地区へ給水している泉浄水場水系へのバックアップ路線も兼ねた「鹿島・常磐水系幹線」及び「中部配水池」の整備を進めるものです。

【実施・評価内容】

令和7年度計画　1工区　⇒　実施　1工区

○実施：1工区

〈令和7年度計画分：1工区〉

・鹿島・常磐水系幹線新設工事（第10工区）（R7～R10年度継続事業）

○鹿島・常磐水系幹線　令和7年度までの進捗

計画　9/13工区（69.2%）

実績　9/11工区（81.8%）

※ 工区の合併、見直しにより全13工区から全11工区としました。



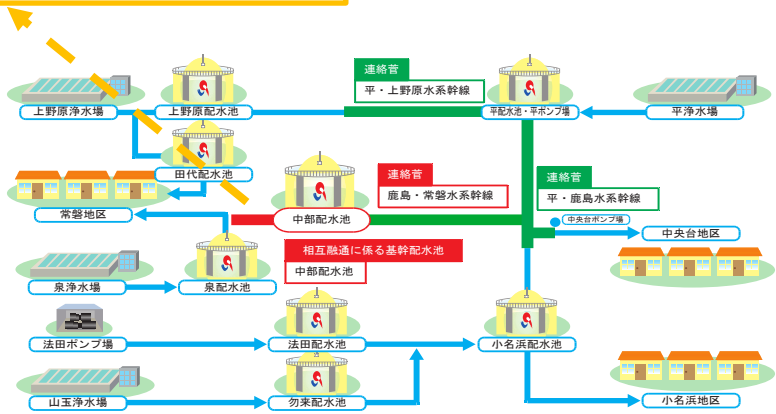
・中部配水池新設工事（R6～R10年度継続事業）



中部配水池　敷地造成状況

【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
1	【局指標】 バックアップ率（%）
2	【局指標】 基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率（%）
7	【PI:B605】 管路の耐震管率（%）
8	【PI:B606】 基幹管路の耐震管率（%）



No.31 重要給水施設配水管整備事業

評 価

評価数値 5.0　A

○評価数値基準

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

【事業概要】

この事業は、災害等の非常時においても救急医療機関等の重要な給水施設（重要給水施設）への確実な給水を確保するため、「重要給水施設配水管整備計画」に基づき、耐震化された配水池から重要給水施設までの管路耐震化を進めるものです。

令和7年度は「重要給水施設配水管整備計画」の改訂を行い、対象施設と整備ルートの見直しを実施しました。

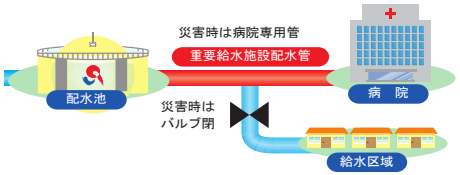
【実施・評価内容】

令和7年度 整備延長	令和7年度まで 整備済延長（A）	計画総延長（B）
2,155m	60,141m※	96,810m

※計画改訂に伴う見直し延長含む

令和7年度
重要給水施設配水管路の耐震管率

計画　61.9%
実績　62.1%(A/B)



重要給水施設配水管イメージ

【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
7	【PI:B605】 管路の耐震管率（%）
8	【PI:B606】 基幹管路の耐震管率（%）
9	【PI:B607】 重要給水施設配水管路の耐震管率（%）
14	【PI:B504】 管路の更新率（%）

○令和7年度に重要給水施設配水管の耐震化が完了した施設

救急医療機関・人工透析病院	公共施設・福祉避難所
	内郷支所
	内郷公民館

○令和6年度以前に重要給水施設配水管の耐震化が完了した施設

救急医療機関・人工透析病院	公共施設・福祉避難所
松村総合病院	県立平支援学校
かしま病院	福島県いわき海浜自然の家
松尾病院	中央台市民サービスセンター
ニュータウン腎・内科クリニック	中央台分遣所
かもめクリニック	江名分遣所
いわき市医療センター	久之浜大久支所
大河内記念病院	川前支所
常磐病院	川前分遣所
いわき泌尿器科	小川支所
	いわきゆったり館
	いわきサン・アビリティーズ
	いわき支援学校

○完了：7件
〈令和6年度から令和7年度への繰越分〉L=681m
・(重)勿来町配水管(第327-8号外)整備工事　など
〈令和6年度から令和7年度継続分〉L=297m
・(重)錦町配水管(第312-57号外)整備工事
〈令和7年度計画分〉L=1,177m
・(重)内郷綴町配水管(第154-20号外)整備工事　など

○未完了：2件
・(重)小名浜南富岡配水管(第265-5号外)整備工事
【R6～R8年度継続事業】
地盤改良の増工に伴いR6～R7継続からR6～R8継続へ実施工期延長
・(重)鹿島町久保配水管(第210-105号外)整備工事
入札不調のため実施年度を令和9年度に変更

No.32 老朽管更新事業

評価	
評価数値 4.0	B

○評価数値基準

A	5.0	目標値の100%以上
B	4.0	目標値の80%以上100%未満
C	3.0	目標値の50%以上80%未満
D	2.0	目標値の30%以上50%未満
E	1.0	目標値の30%未満

【事業概要】

この事業は、水道施設総合整備計画（管路整備計画）において本市の更新基準として設定した「標準使用年数」や重要度に応じて設定した「延長使用年数」に基づき、100年更新サイクルを目指し、管路の年間更新率1.00%（23km）を目標に計画的に管路を更新するものです。

【実施・評価内容】

令和7年度計画　23km（年間目標）　⇒　完了　22.7km

令和7年度　管路の更新率

管路総延長　2,282.8km　　計画　1.00%
更新延長　　22.7km　　実績　0.99%

○完了：61件

〈令和6年度からの繰越分〉 L=7.0km
・小名浜野田配水管（第225-35号）改良工事 外21件

〈令和6年度から令和7年度の債務負担分〉 L=9.7km
・自由ケ丘配水管（第157-110号外）改良工事　外15件

〈令和7年度計画分〉 L=6.0km
・常磐下湯長谷町配水管（第206-58号外）改良工事　外22件

○未完了：51件

〈令和7年度から令和8年度への繰越分〉 L=6.2km
・小島町配水管（第139-81号外）改良工事　外21件

〈令和7年度から令和8年度の債務負担分〉 L=10.1km
・四倉町大森配水管（第96-26号）改良工事　外20件

〈中止分〉 L=1.7km
・江名配水管（第250-29号）改良工事（他工事との調整）　外7件

※ 繰越した事業及び債務負担工事は令和8年度に完了する見込みです。

【対応する重要業務指標（KPI）】

指標No.	重要業務指標（KPI）
7	【PI:B605】 管路の耐震管率（%）
8	【PI:B606】 基幹管路の耐震管率（%）
14	【PI:B504】 管路の更新率（%）



老朽管を撤去し新たな管を布設している様子

4 重要業務指標（KPI)の進捗状況

重要業務指標(KPI)は、水みらいビジョンの中心となる9つの主要事業の実効性を確保するとともに、その達成状況をお客さまにわかりやすくお知らせできるよう目標として設定した指標です。現時点での進捗状況や計画期間の最終目標（R13）についてお知らせします。

指標No.	業務指標名 算出方法	R2 （ビジョン策定時）	R7 （実績値）	R7 （目標値）	R13 （目標値）	指標の解説	対応する事業	指標特性/改善方向
1	**【局指標】** **バックアップ率(%)** （各浄水場停止時のバックアップ可能水量合計／1日平均配水量）×100 ※上水道のみの数値	62.7%	**70.9%**	69.1%	76.3%	1日平均配水量に対するバックアップ可能水量の割合を示すもので、各浄水場の機能が停止した場合の給水の安定性を表すものであり、水道施設再構築構想において目標として設定したもの。	浄水場再整備事業 基幹浄水場連絡管整備事業	累積 ＋
2	**【局指標】** **基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率(%)** （鹿島・常磐水系幹線新設・中部配水池新設完成工区数／総工区数）×100	23.1%	**81.8%**	69.2%	100% （R10）	相互融通体制の構築において重要となる基幹浄水場連絡管整備事業の進捗状況を示すもので、給水の安定性向上に向けた取組状況を表すもの。	基幹浄水場連絡管整備事業	累積 ＋
3	**【局指標】** **耐震診断実施率(%)** （耐震診断実施箇所数／耐震診断対象箇所数）×100	20.6%	**54.5%**	76.5%	100% （R10）	水道施設耐震化計画における耐震診断対象施設のうち耐震診断を実施した施設の割合を示すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したもの。	水道施設耐震化事業	累積 ＋

※R13目標値の（ ）書きは、目標年度前に目標値が達成される見込みの年度

4 重要業務指標（KPI)の進捗状況

指標No.	業務指標名 算出方法	R2 （ビジョン策定時）	R7 （実績値）	R7 （目標値）	R13 （目標値）	指標の解説	対応する事業	指標特性/改善方向
4	**【PI:B602】 浄水施設の耐震化率(%)** （耐震対策の施された浄水施設能力／全浄水施設能力）×100	23.4%	**39.2%**	23.6%	33.2%	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したもの。	浄水場再整備事業 水道施設耐震化事業	累積 ＋
5	**【PI:B603】 ポンプ所の耐震化率(%)** （耐震対策の施されたポンプ所（ランクA）能力／耐震化対象ポンプ所能力）×100	51.6%	**61.2%**	51.6%	53.8%	耐震化対象ポンプ所（ランクA）能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したもの。	水道施設更新事業 水道施設耐震化事業	累積 ＋
6	**【PI:B604】 配水池の耐震化率(%)** （耐震対策の施されたランクA配水池有効容量／全配水池等有効容量）×100	30.6%	**58.6%**	46.9%	56.0%	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したもの。	水道施設更新事業 水道施設耐震化事業	累積 ＋
7	**【PI:B605】 管路の耐震管率(%)** （耐震管延長／管路延長）×100 ※水道配水用ポリエチレン管を含む。	12.6%	**17.9%**	18.3%	24.4%	導・送・配水管（配水支管を含む）すべての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したもの。	基幹浄水場連絡管整備事業 重要給水施設配水管整備事業 老朽管更新事業	累積 ＋

4 重要業務指標（KPI)の進捗状況

指標No.	業務指標名 算出方法	R2 （ビジョン策定時）	R7 （実績値）	R7 （目標値）	R13 （目標値）	指標の解説	対応する事業	指標特性/改善方向
8	**【PI:B606】** **基幹管路の耐震管率(%)** （基幹管路のうち耐震管延長／基幹管路延長）×100	43.6%	**47.2%**	46.9%	51.1%	基幹管路（導・送・配水本管）の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表すものであり、水道施設耐震化計画において目標として設定したもの。	基幹浄水場連絡管整備事業 重要給水施設配水管整備事業 老朽管更新事業	累積 ＋
9	**【PI:B607】** **重要給水施設配水管路の耐震管率(%)** （重要給水施設配水管路のうち耐震管延長／重要給水施設配水管路延長）×100	37.9%	**62.1%**	61.9%	70.1%	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表すものであり、重要給水施設配水管整備事業の成果を表すもの。	重要給水施設配水管整備事業	累積 ＋
10	**【局指標】** **津波・浸水対策実施率(%)** （恒久対策及び予防対策実施済み施設数／恒久対策及び予防対策実施対象施設数）×100	0.0%	**100%**	100%	100% （R7）	水道施設津波・浸水対策計画における恒久対策及び予防対策実施対象施設のうち津波・浸水対策を完了した施設の割合を示すもので、水道施設津波・浸水対策計画において目標として設定したもの。	水道施設津波・浸水対策事業	累積 ＋
11	**【局指標】** **土砂災害対策実施率(%)** （恒久対策及び予防対策実施済み施設数／恒久対策及び予防対策実施対象施設数）×100	0.0%	**100% （R6）**	100% （R6）	100% （R6）	水道施設土砂災害対策計画における恒久対策及び予防対策実施対象施設のうち土砂災害対策を完了した施設の割合を示すもので、水道施設土砂災害対策計画において目標として設定したもの。	水道施設土砂災害対策事業	累積 ＋

※R13目標値の（ ）書きは、目標年度前に目標値が達成される見込みの年度

4 重要業務指標（KPI)の進捗状況

指標No.	業務指標名 算出方法	R2 （ビジョン策定時）	R7 （実績値）	R7 （目標値）	R13 （目標値）	指標の解説	対応する事業	指標特性/改善方向
12	**【局指標】** **停電対策実施率(%)** （対策実施済み施設数／対策レベルAまたはBに該当する施設数）×100	39.1%	**69.6%**	73.9%	100%	水道施設停電対策計画における対策レベルA又はBに該当する施設のうち停電対策を完了した施設の割合を示すもので、水道施設停電対策計画において目標として設定したもの。	水道施設停電対策事業	累積 ＋
13	**【局指標】** **施設の更新率(%)** （水道施設整備計画の計画期間内（令和53年度まで）に更新された施設数／総施設数）×100	0.0%	**0.5%**	1.1%	5.5%	総施設数に対する水道施設整備計画の計画期間内に更新された施設の割合を示すもので、水道施設整備計画において目標として設定したもの。	浄水場再整備事業 水道施設更新事業	累積 ＋
14	**【PI:B504】** **管路の更新率(%)** （更新された管路延長／管路延長）×100	1.36%	**0.99%**	1.00%	1.00%	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表すものであり、管路整備計画において目標として設定したもの。	重要給水施設配水管整備事業 老朽管更新事業	単年 ＋

【参考１】 実施事業評価（66事業）一覧表

【評価基準】実施事業評価は、事業ごとに設定した達成目標を踏まえ、Ａ～Ｅの５段階で評価します。

○数値目標がないもの	○数値目標があるもの	○達成目標が複数あるもしくは複数課にまたがる場合の集約		
順調に進捗している	目標値の100%以上	各評価の平均値	4.5以上	⇒ Ａ評価
おおむね順調に進捗している	目標値の80%以上100%未満		3.5以上4.5未満	⇒ Ｂ評価
やや遅れている	目標値の50%以上80%未満		2.5以上3.5未満	⇒ Ｃ評価
遅れている	目標値の30%以上50%未満		1.5以上2.5未満	⇒ Ｄ評価
ほとんど進捗していない	目標値の30%未満		1.5未満	⇒ Ｅ評価

安全の方向性　安全でおいしい水道水の供給

柱	施策	事業名	評価
1.1	1	No.1　水安全計画の推進	A
	2	No.2　水道水源の保全と監視強化	A
		No.3　水道水源水質保全促進事業補助金の交付	A
	3	No.4　安全でおいしい水の調査研究	A
1.2	4	No.5　水質検査計画の策定と推進	A
	5	No.6　水質検査機器の計画的整備・更新	A
		No.7　水道GLP認定に準じた検査体制の整備	A
	6	No.8　放射性物質モニタリングの継続	A
1.3	7	No.9　貯水槽水道の適正管理の推進	A
		No.10 直結式給水の推進	A
		No.11 鉛製給水管の布設替の推進	A
	8	No.12 多様な手法による水供給の研究	A

強靭の方向性　最適で災害に強い水道システムの構築

柱	施策	事業名	評価	
2.1	9	No.13　水道施設再構築構想の推進	―	No.14に集約
		No.14　浄水場再整備事業 主要事業　※ 明細は15ページ参照	A	
	10	No.15　水道施設のダウンサイジングの検討	A	
		No.16　水道施設の効率的な運用	A	
		No.17　水道施設撤去事業	A	
	11	No.18　水道施設整備計画の推進	―	No.19・20に集約
		No.19　水道施設新設事業	C	小川江筋取水ゲート新設工事の入札不調により、工事を翌年度へ繰越したことによるもの。
		No.20　水道施設更新事業 主要事業　※ 明細は16ページ参照	A	
2.2	12	No.21　水道施設耐震化計画の推進	―	No.22に集約
		No.22　水道施設耐震化事業 主要事業　※ 明細は17ページ参照	B	耐震診断委託の入札不調により、委託の実施年度を変更したことによるもの。
	13	No.23　水道施設津波・浸水対策計画の推進	―	No.24に集約
		No.24　水道施設津波・浸水対策事業（令和7年度事業完了） 主要事業　※ 明細は18ページ参照	A	
	14	No.25　水道施設土砂災害対策計画の推進	―	No.26に集約
		No.26　水道施設土砂災害対策事業（令和6年度事業完了） 主要事業　※ 明細は19ページ参照	―	R6事業完了
	15	No.27　水道施設停電対策計画の推進	―	No.28に集約
		No.28　水道施設停電対策事業 主要事業　※ 明細は20ページ参照	A	

※集約した事業については、関係する各事業において検証・評価することとしました。

強靭の方向性　最適で災害に強い水道システムの構築

柱	施策	事業名	評価	
2.2	16	№29　管路整備計画の推進	―	№30～33に集約
		№30　基幹浄水場連絡管整備事業 主要事業　※ 明細は21ページ参照	A	
		№31　重要給水施設配水管整備事業 主要事業　※ 明細は22ページ参照	A	
		№32　老朽管更新事業 主要事業　※ 明細は23ページ参照	B	繰越工事（22件、6km）等が発生したことによるもの。
		№33　管路新設事業	―	R7計画事業なし
2.3	17	№34　水道施設台帳の整備・更新	A	
		№35　水道施設情報管理のシステム化の検討	A	
	18	№36　水道施設長寿命化計画の推進	―	№37・38に集約
		№37　計画的な維持修繕の実施（計画修繕）	A	
		№38　漏水防止対策事業	A	
2.4	19	№39　水道事業継続計画（BCP）の推進	A	
	20	№40　危機管理対策マニュアルの充実と教育・訓練の実施	A	
	21	№41　災害時通信手段の確保	A	
		№42　応急資器材の備蓄と適正管理	B	備蓄倉庫及び災害倉庫の新設の必要性を再精査することによるもの。

※集約した事業については、関係する各事業において検証・評価することとしました。

持続の方向性　持続可能な経営基盤の確立

柱	施策	事業名	評価
3.1	22	№43　効率的な組織機構の検討と適切な人員管理	A
	23	№44　職員教育の充実と求められる技術力の確保	A
3.2	24	№45　将来の事業環境を見据えた水道料金制度の検討	A
	25	№46　財政収支計画の推進	A
		№47　企業債管理の適正化	A
		№48　アセットマネジメントの活用推進	A
		№49　財政支援等の要望と新たな財源確保の推進	A
	26	№50　新たな官民連携による業務改善の検討	A
		№51　業務改善の推進	A
	27	№52　水道電算処理システムの改善	A
		№53　ICT活用による業務の効率化の検討	A
	28	№54　水みらいビジョンの進行管理と評価	A
3.3	29	№55　市循環型オフィスづくり行動計画の推進	A
		№56　再生可能エネルギー利用と省エネルギー対策の推進	A
		№57　発生抑制を主眼とした3Rの推進と適正処理	A
3.4	30	№58　戦略的でわかりやすい広報の推進	A
		№59　電子媒体を活用した情報提供の推進	A
		№60　お客さま意識調査等の実施	A
	31	№61　水に親しむまちづくりの推進	A
3.5	32	№62　修繕体制の充実	A
		№63　指定給水装置工事事業者等との連携	A
		№64　お客さま手続サービスの利便性向上	A
	33	№65　他水道事業者からの水質検査受託の継続	A
		№66　関係者等との連携による水道基盤の強化	A

66事業の評価結果について

「安全」の方向性は、全12事業すべて「A評価」
「強靭」の方向性は、評価対象の20事業中「A評価」が16事業、「B評価」が3事業、「C評価」が1事業、
「持続」の方向性は、全24事業すべて「A評価」
となりました。

評価結果一覧

	A	B	C	D	E	－	計
安全	12	0	0	0	0	0	12
強靭	16	3	1	0	0	10※	30
持続	24	0	0	0	0	0	24
計	52	3	1	0	0	10※	66

※事業の完了や集約などにより、評価を実施しなかったもの

B評価

- No.22 水道施設耐震化事業 主要事業
- No.32 老朽管更新事業 主要事業
- No.42 応急資器材の備蓄と適正管理

C評価

- No.19 水道施設新設事業

Ⅲ　業務指標評価

１　業務指標評価の評価方法……34

２　業務指標評価の対象となるPI……36

【参考3】

３　業務指標評価の評価結果……41

業務指標評価の評価方法

業務指標評価は、水みらいビジョンに基づく事業活動の効果についてPIを活用して客観的な評価を行うものであり、「水道事業ガイドライン（PI）を活用した現状分析診断システム」（公益財団法人水道技術研究センター）の手法を参考に、経年的な変化や類似団体との乖離を「改善度」と「乖離値」から評価・分析するものです。

項 目	評 価 方 法
改善度	● PI値が、前年度のPI値からどの程度変化したのかによって評価します。 ● 改善されている場合は正（＋）として、悪化している場合は負（－）として表示します。
乖離値	● PI値が、類似団体の平均値とどの程度離れているかによって評価します。 ● 平均値と同じ場合は50となり、平均値よりも高い場合は50を超え、低い場合は50を下回ります。

業務指標評価の評価方法

改善度と乖離値の分析

PIごとに改善度と乖離値の分析表で分類し、分析を行います。

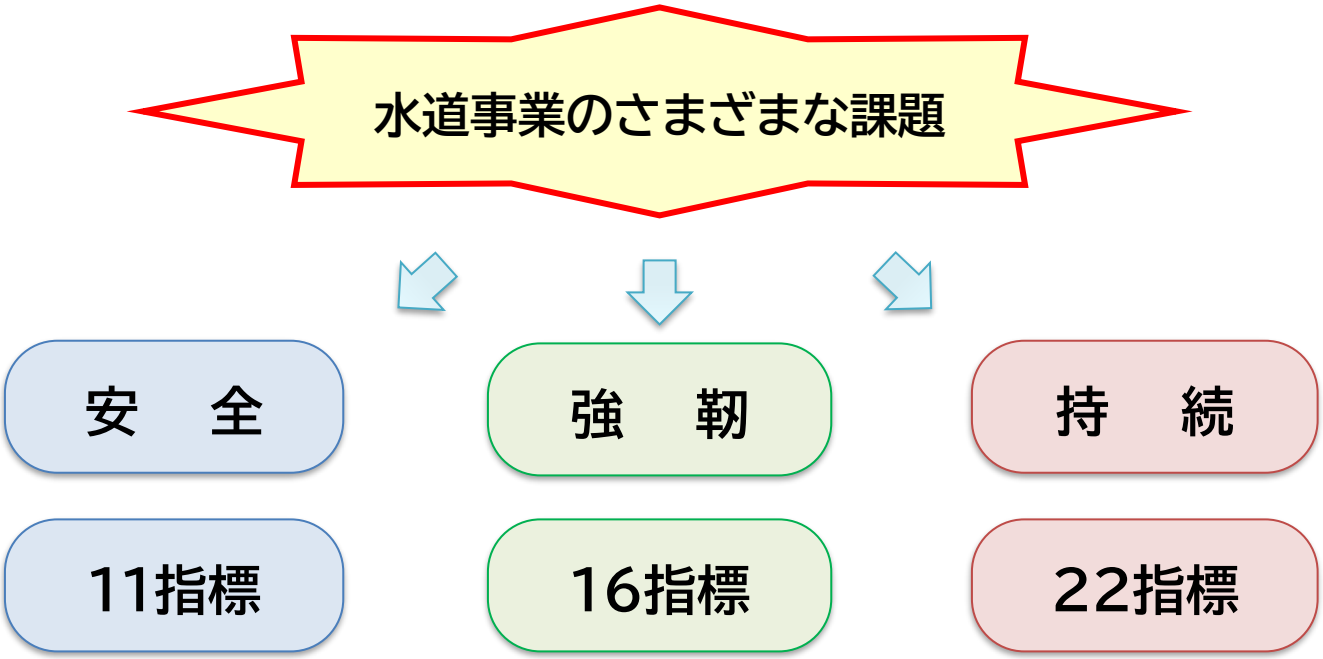


改善度と乖離値の分析表

カテゴリ	指標の特徴	カテゴリの特徴
カテゴリⅠ	乖離値が高く、かつ改善度も高い指標	積極的に事業が行われ、類似団体より結果も出ている。
カテゴリⅡ	乖離値が高いが、改善度は悪化している指標	類似団体より結果は出ているが、事業が不足している。
カテゴリⅢ	乖離値は低いが、改善度は高い指標	積極的に事業が行われているが、類似団体より結果が出ていない。
カテゴリⅣ	乖離値が低く、かつ改善度も悪化している指標	事業が不足しており、類似団体より結果も出ていない。

業務指標評価の対象となるPI

評価の対象となるPIは、水みらいビジョンに掲げた「安全」「強靭」「持続」の3つの方向性ごとの課題をはかりとることのできる49指標としています。



【参考3】 業務指標評価の評価結果

PI診断表

安 全

区 分	課題分類		課題をはかりとるPI 【KPI】:重要業務指標		単位	PI値		改善度	乖離値		比較事業体PI値(R6)（いわき市含む）		カテゴリ
						R6	R7	R6→R7	R6	R7	平均値	標準偏差	
安全でおいしい水道水の供給〈安全の方向性〉	原水・浄水	事故	A301	水源の水質事故件数	件	0	0	→ 0.0%	54.1	54.1	0.39	0.96	Ⅰ
		原水由来の臭気	A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率	%	30.0	30.0	→ 0.0%	45.8	45.8	22.7	17.5	Ⅲ
		地下水の汚染	A105	重金属濃度水質基準比率	%	2.4	2.9	↓ -20.8%	51.7	51.0	3.7	7.8	Ⅱ
			A107	有機化学物質濃度水質基準比率	%	0.0	0.0	→ 0.0%	52.5	52.5	0.1	0.4	Ⅰ
	配水	塩素処理による水質課題	A108	消毒副生成物濃度水質基準比率	%	43.3	30.0	↑ 30.7%	32.4	43.1	21.5	12.4	Ⅲ
			A101	平均残留塩素濃度	mg/L	0.33	0.34	→ -3.0%	59.2	58.3	0.44	0.12	Ⅱ
		赤水・濁水	B504	管路の更新率 【KPI】	%	0.88	0.99	↑ 12.5%	53.9	57.3	0.75	0.33	Ⅰ
		施設老朽化	B502	法定耐用年数超過設備率	%	62.5	62.5	→ 0.0%	39.9	39.9	48.2	14.1	Ⅲ
			B503	法定耐用年数超過管路率	%	31.7	33.6	↓ -6.0%	48.7	46.3	30.6	8.2	Ⅳ
	給水	貯水槽水道	A204	直結給水率	%	98.9	99.1	→ 0.2%	57.3	57.4	84.8	19.4	Ⅰ
		鉛製給水管	A401	鉛製給水管率	%	0.6	0.5	↑ 16.7%	55.8	56.0	5.5	8.4	Ⅰ

【参考3】 業務指標評価の評価結果

PI診断表

強　靭

区　分	課題分類		課題をはかりとるPI【KPI】:重要業務指標		単位	PI値		改善度	乖離値		比較事業体PI値(R6)(いわき市含む)		カテゴリ
						R6	R7	R6→R7	R6	R7	平均値	標準偏差	
最適で災害に強い水道システムの構築〈強靭の方向性〉	老朽化対策	管路・施設更新	B502（再掲）	法定耐用年数超過設備率	%	62.5	62.5	→ 0.0%	39.9	39.9	48.2	14.1	Ⅲ
			B503（再掲）	法定耐用年数超過管路率	%	31.7	33.6	↓ -6.0%	48.7	46.3	30.6	8.2	Ⅳ
			B504（再掲）	管路の更新率【KPI】	%	0.88	0.99	↑ 12.5%	53.9	57.3	0.75	0.33	Ⅰ
		給水管・給水用具最適化	B208	給水管の事故割合	件/1000件	5.4	5.6	→ -3.7%	43.6	42.9	3.6	2.8	Ⅳ
	災害対策	管路・施設耐震化	B605	管路の耐震管率【KPI】	%	16.9	17.9	↑ 5.9%	42.3	43.3	24.5	9.9	Ⅲ
			B606	基幹管路の耐震管率【KPI】	%	46.5	47.2	→ 1.5%	52.6	53.0	41.6	18.8	Ⅰ
			B607	重要給水施設配水管路の耐震管率【KPI】	%	59.3	62.1	→ 4.7%	55.7	57.1	47.2	21.1	Ⅰ
			B602	浄水施設の耐震化率【KPI】	%	23.6	39.2	↑ 66.1%	44.1	48.8	43.1	33.3	Ⅲ
			B603	ポンプ所の耐震化率【KPI】	%	51.6	61.2	↑ 18.6%	47.9	50.7	58.8	33.8	Ⅰ
			B604	配水池の耐震化率【KPI】	%	58.6	58.6	→ 0.0%	43.5	43.5	72.8	21.9	Ⅲ
		災害時給水量の確保	B113	配水池貯留能力	日	1.22	1.22	→ 0.0%	62.2	62.2	0.89	0.27	Ⅰ
			B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	212	215	→ 1.4%	59.8	60.3	152	61	Ⅰ
	施設規模の適正化	普及率向上	B116	給水普及率	%	99.8	99.8	→ 0.0%	52.7	52.7	99.0	3.0	Ⅰ
		適正な予備力	B114	給水人口一人当たり配水量	L/日・人	342	347	→ 1.5%	56.1	57.5	320	36	Ⅰ
	財源・職員の適正化	財源・職員の適正化	C103	総収支比率	%	107.5	104.1	→ -3.2%	45.8	40.2	110.0	6.0	Ⅳ
			C108	給水収益に対する職員給与費の割合	%	15.2	15.2	→ 0.0%	36.0	36.0	11.0	3.0	Ⅲ

【参考3】 業務指標評価の評価結果

PI診断表

持　続

区　分	課題分類		課題をはかりとるPI 【KPI】:重要業務指標		単位	PI値		改善度	乖離値		比較事業体PI値(R6)（いわき市含む）		カテゴリ
						R6	R7	R6→R7	R6	R7	平均値	標準偏差	
持続可能な経営基盤の確立〈持続の方向性〉	ヒト	人材確保	C202	外部研修時間	時間/人	7.4	8.3	↑ 12.2%	47.6	48.5	9.8	10.2	Ⅲ
			C203	内部研修時間	時間/人	11.2	13.3	↑ 18.8%	49.4	49.8	14.2	54.0	Ⅲ
		効率性	C108（再掲）	給水収益に対する職員給与費の割合	%	15.2	15.2	→ 0.0%	39.1	39.1	11.4	3.5	Ⅲ
		技術力	C205	水道業務平均経験年数	年/人	10.6	10.9	→ 2.8%	49.4	50.0	10.9	5.1	Ⅰ
	モノ	投資	B504（再掲）	管路の更新率 【KPI】	%	0.88	0.99	↑ 12.5%	53.9	57.3	0.75	0.33	Ⅰ
			B110	漏水率	%	7.3	8.5	↓ -16.4%	46.3	43.5	5.7	4.3	Ⅳ
		効率性	B104	施設利用率	%	50.9	51.0	→ 0.2%	36.7	36.8	66.9	12.0	Ⅲ
			B301	配水量1m^3当たり電力消費量	kWh/m^3	0.45	0.48	↓ -6.7%	42.5	41.0	0.30	0.20	Ⅳ
	カネ	収益性	C102	経常収支比率	%	107.1	103.1	→ -3.7%	45.6	39.2	109.9	6.3	Ⅳ
			C104	累積欠損金比率	%	0.0	0.0	→ 0.0%	50.0	50.0	0.0	0.0	Ⅰ
		料金	C113	料金回収率	%	101.7	97.9	→ -3.7%	47.8	42.9	103.4	7.7	Ⅳ
			C114	供給単価	円/m^3	225.1	226.0	→ 0.4%	69.8	70.1	168.2	28.7	Ⅰ

【参考3】 業務指標評価の評価結果

PI診断表

持　続

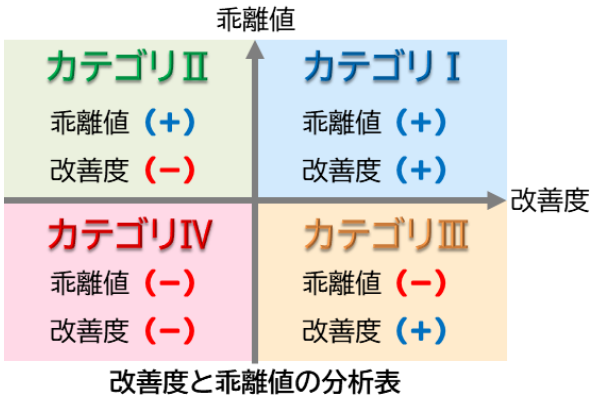
区　分	課題分類		課題をはかりとるPI【KPI】:重要業務指標		単位	PI値		改善度	乖離値		比較事業体PI値(R6)（いわき市含む）		カテゴリ
						R6	R7	R6→R7	R6	R7	平均値	標準偏差	
持続可能な経営基盤の確立〈持続の方向性〉	カネ	流動性	C118	流動比率	%	214.6	227.9	↑ 6.2%	46.6	47.3	277.2	186.0	Ⅲ
		生産性･効率性	B112	有収率	%	89.9	88.8	→ -1.2%	49.7	48.2	90.1	7.1	Ⅳ
			C115	給水原価	円/m^3	221.3	230.9	→ -4.3%	29.0	25.5	162.9	27.8	Ⅳ
		他会計依存	C106	繰入金比率(資本的収入分)	%	18.1	23.9	↓ -32.0%	38.4	32.0	7.5	9.1	Ⅳ
		財務の健全性	C119	自己資本構成比率	%	73.1	72.9	→ -0.3%	51.0	50.9	71.6	14.4	Ⅱ
			C112	給水収益に対する企業債残高の割合	%	310.8	317.6	→ -2.2%	47.3	46.9	264.8	168.8	Ⅳ
			C121	企業債償還元金対減価償却費比率	%	69.1	64.1	↑ 7.2%	46.6	48.4	59.3	29.2	Ⅲ
	情報	情報提供	C401	広報誌による情報の提供度	部/件	5.6	6.3	↑ 12.5%	59.0	61.3	2.8	3.1	Ⅰ
			C403	水道施設見学者割合	人/1000人	5.7	6.4	↑ 12.3%	56.7	58.6	3.3	3.6	Ⅰ
		意見等収集	C502	アンケート情報収集割合	人/1000人	6.95	10.17	↑ 46.3%	74.3	89.6	1.85	2.10	Ⅰ

業務指標評価の評価結果について

「安全」の方向性は、「カテゴリⅠ」が5指標、「カテゴリⅣ」が1指標となりました。
「強靭」の方向性は、「カテゴリⅠ」が8指標、「カテゴリⅣ」が3指標となりました。
「持続」の方向性は、「カテゴリⅠ」が7指標、「カテゴリⅣ」が8指標となりました。

評価結果一覧

	カテゴリⅠ	カテゴリⅡ	カテゴリⅢ	カテゴリⅣ	計
安全	5	2	3	1	11
強靭	8	0	5	3	16
持続	7	1	6	8	22
計	20	3	14	12	49



改善度と乖離値の分析表

【分析】
「安全」「強靭」において、「管路の更新率」や、基幹管路および重要給水施設配水管路、ポンプ施設の耐震化は、事業の進捗により改善度が上昇し、類似団体に比べ高い傾向にあります。その他の指標は改善度、乖離値ともに概ね横ばいの状況にあります。
「持続」において、物価高騰などで費用が増え、「給水原価」が上昇しました。その結果、経営の健全化を示す指標の一つである「料金回収率」が100未満となり、水道料金だけでは水を作る費用を賄えていない状態である結果となり、経営状況がより厳しく、類似団体と比べ低い状況にあります。

Ⅳ まとめ

目指すべき将来像の実現に向けた歩みを着実に進めるため、「安全」、「強靭」、「持続」の3つの方向性と基本方針の下、各種事業を実施してきました。

9つの「主要事業」については、令和6年度に完了した「水道施設土砂災害対策事業」を除く8事業のうち、「A評価」が6事業、「B評価」が2事業となりました。

「B評価」となった「老朽管更新事業」および「水道施設耐震化事業」は、入札不調などにより、工事の繰越や耐震診断委託の実施年度の変更が生じたため、「A評価」を達成できなかったものですが、繰越となった工事は令和8年度に完了する見込みであり、耐震診断委託は令和9年度に実施する予定です。

「業務指標評価」については、給水人口の減に伴う給水収益の減少や物価高騰による動力費の増加などにより、財務に関わる指標が悪化していますが、災害対策に関わる指標は主要事業の実施によりおおむね改善の傾向にあります。

今回の事業評価の結果を事業運営に反映するとともに、経営状況の改善を図りながら、より効率的かつ効果的に事業を着実に実施することで、基本理念「未来に引き継ぐいわきの水道　～安全でおいしい水を必要なだけ～」の実現に向けて各種事業に取り組んでまいります。